

## ◎手話

聴覚障害のある方とのコミュニケーション方法として一般的ですが、手話のできる方は、聴覚障害といわれる方全体の5%程度です。手話は、音声言語と別の体系を持った独自の言語です。リラックスして即時に意志や感情を伝え、読み取ることができるため、日常会話には適したコミュニケーション手段です。

### 手話を学ぶには…

本やビデオ、NHKの手話番組「みんなの手話」の他に、地域の手話サークルや市町村などで開催される手話講習会などがあります。



## 5 聴覚障害のある方が困ること

### 1. 外見で判断するのが難しい

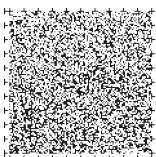
目の不自由な方や車いすの方などは、周囲の方が見てわかるため、困っている時などにも比較的手助けを受けやすいものです。しかし、聴覚障害のある方は、一見してその障害はわかりません。そのため、周囲の方に気づいてもらえず、逆に心ない言葉を受けることもあります。

### 2. 音で周囲の状況を判断できない

衝撃音や車のクラクションなど、音から周囲の状況を判断することができない場合があります。事故や事件が起こったとしても、どうすればいいのか判断できないことがあります。そのため、危険な目にあうことが多いです。また、トラブルに巻き込まれることもあります。



イラスト：東京都心身障害者福祉センター



### 3. 放送や呼びかけに気づかない

聴覚障害のある方に合図を送る場合、放送による呼び出しや声をかけることでは通じない場合がほとんどです。そのため、受付などで呼ばれても、気づかないため不在と思われてしまう場合が多いです。また、電車内、店内や駅の構内放送などにも気づかずに、適切な行動がとれないこともあります。



### 4. コミュニケーションの仕方を理解されない

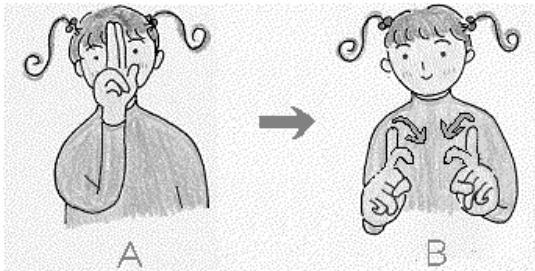
聴覚障害のある方は、その方に合ったコミュニケーションの方法を持っています。しかし、正しい理解を得られない場合もあります。例えば、補聴器を付けている全ての方が、会話を聞き取れるわけではありませんので声を大きくすれば聞こえるというものでもありません。また、読話などでも相手の話し方によっては理解できない場合があります。



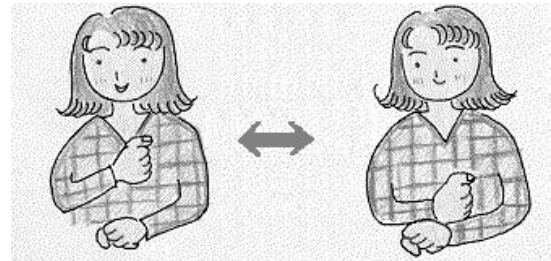
イラスト：東京都心身障害者福祉センター

## “ミニ手話学習コーナー”

「こんにちは」



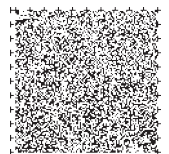
「おつかれさまでした」



イラスト：NECソフト株式会社

### ◎聴覚障害に関する問合せ先

手話通訳・要約筆記について・・・佐倉市障害福祉課（連絡先は P38）  
手話サークル情報・手話講座について・・・佐倉市社会福祉協議会（を参照）



## IV 肢体不自由のある方と出会ったら…

### 1 肢体不自由とは

肢体不自由とは上肢（手・腕）下肢（脚・足）が無い状態や、上肢、下肢、体幹（胴体）が神経・関節などの障害のために正常な動きができない状態のことを指します。

肢体不自由になる原因は・・・

- ①事故などで体の一部を切断してしまう場合
- ②病気や事故で脳が正常に動かなくなってしまう場合
- ③病気で筋肉などが動かなくなってしまう場合

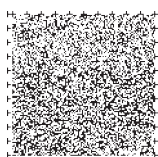
※特に脳を原因とする場合は、記憶力が低下する（高次脳機能障害参照）などの障害が併発することも少なくありません。

### 2 生活の中で不便に感じること

肢体不自由によって、何気ない普段の生活でも、不便を感じる方が大勢います。

例えば・・・

- ①車いすで移動する場合
  - ・階段などの段差の昇り降りですら苦勞することがあります。
  - ・障害者用駐車場程度の広いスペースがないと、車から乗り降りすることができません。
- ②手足を失ったり、手足にまひがある場合
  - ・ドアの開閉に苦勞することがあります。
- ③口の中がまひした場合
  - ・うまく会話できず、自分の思いを十分に伝えられないことがあります。



### 3 配慮によって障害による不便さが軽減されます

私たち一人一人が障害に対して配慮することによって、障害を持っている方が日常生活の中で不便を感じる場数を減らすことができます。

- 「障害を持っている方＝常に手助けが必要な方」ではありません。
- 配慮のポイントは障害を持つ方が不便を感じる事をサポートすることです。
- 「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけてみてください。

せっかく声をかけたのに断られても怒らないでください。障害を持っているからといって何にもできないわけではないことを理解してください。

### 4 配慮のポイント

困っている方を見かけたら、まず…  
同じ目線で、「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけましょう。

◎段差があるところでは…

車いすの方や杖を使っている方が段差や溝などの凹凸があるところを通るのはとても大変です。凹凸のあるところでは走行や歩行が不安定になり、転倒の恐れもあります。

移動に困っている様子なら、一声かけてから手伝いましょう。一人で手伝うのが難しければ、まわりの人に協力してもらいましょう。

◎階段では…

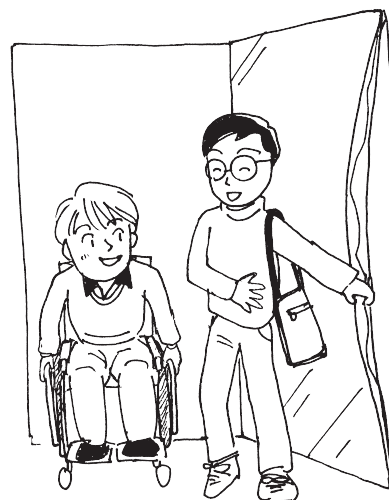
エレベーターや昇降機がない場所で車いすの方を見かけたら、2～4人で協力して階段の昇り降りを行いましょう。駅などの施設内であれば、駅員や職員を呼んでください。

◎出入口では…

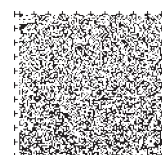
車いすの方や手の不自由な方は、手動のドアは開けにくいものです。

開閉できずに困っている様子なら、ドアの開閉を手伝いましょう。

また、エレベーターなどの乗り降りの際は、「開」ボタンを押して乗り降りが終わるまでドアが開いている状態にしてあげましょう。



イラスト：鈴木 泰子



◎道路や通路では…

道路や通路に置いてある荷物や自転車などは、車いすの方や歩行が困難な方にとっては、移動の妨げになります。

道路や通路に荷物などを置かないように気をつけましょう。また、通行のじゃまになるものに気がいたら移動しておきましょう。

◎駐車場では…

移動が困難な方のために、出入口付近に障害者用駐車場が設置されている場合があります。「少しの間だから…」「他にも停める場所があるから…」という軽い気持ちで止めがちですが、移動が困難な方はこの場所以外では車への乗り降り自体が困難です。障害者用駐車場の目的外の利用は短い時間でもしないようにしましょう。

また、目的外の利用がないよう注意を呼びかけましょう。



◎交通機関では…

足が不自由で長時間立っていることが困難な方がいます。

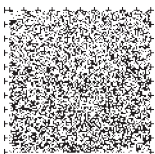
電車やバスなどではできる限り席を譲りましょう。

◎雨天のときは…

建物の出入口付近は、床が濡れて滑りやすくなります。

出入口が濡れたままにならないよう注意しましょう。

傘がさせずに困っている方には、濡れないように傘を差しかけてあげましょう。

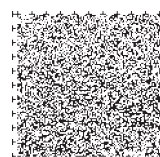


## 5 窓口業務をするときは…

- ①立っていることや同じ姿勢を保つことが困難な方がいます。  
椅子を勧めたり、楽な姿勢ができるようにしましょう。  
ただし、中には座った状態から立ち上がることが困難なため、椅子を断る方もいます。一声かけてから本人の希望を聞いてください。
- ②手の不自由な方やまひのある方は、文字を書くための広いスペースや、文字をゆっくり書く時間が必要です。中には文字を書くことが困難な方もいます。  
十分なスペースをとり、急がせることがないように注意してください。  
文字を書くことが困難な方には、本人の意思を確認してから、可能な限り代筆してください。
- ③まひがある方などは言葉がうまく話せず、聞き取りにくい場合があります。  
わかったふりをしないで、手がかりとなる単語を伝えるなどして、一言ずつ確認するようにしましょう。
- ④手が不自由な方は、お金などの細かいものや荷物の出し入れなどが困難な方がいます。  
希望があれば本人に確認してもらいながら手伝いましょう。



ここに書かれている場面や状況はほんの一例です。  
困っている方を見かけたら、一声かけてから、  
その状況にあった支援をお願いします。

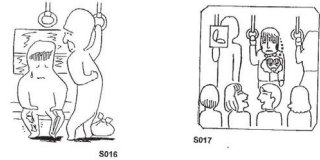


## V 内部障害のある方と出会ったら…

### 1 内部障害とは

内部障害の方々は外見からは障害があることがわからないため、周囲から障害に対する理解がされにくいという面があります。例えば、電車で優先席に座ると「元氣そうなのに」という目で見られるなど、誤解を受けることも少なくありません。

内部障害とは、内臓機能の障害のうち、心臓機能障害、じん臓機能障害、呼吸器機能障害、ぼうこう・直腸機能障害、小腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の6つの障害の総称です。



イラスト：鈴木 泰子

### 2 心臓機能障害について

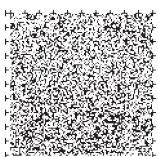
しんきんこうそく きょうしんしょう  
心筋梗塞、狭心症などの疾患のために、心臓の機能が低下することによる障害です。ペースメーカー（※）やICD（※）の埋め込みなどの適切な治療が必要となります。全体的に、動悸や息切れ、疲れやすいなどの体力低下の症状があるため、他の病気になりやすいという特徴があります。継続的に医療を受けながら自己管理をすることが大切です。通院や生活管理をすることで、仕事を続けている方もいます。

#### ※ペースメーカー

胸部に埋め込む医療器具で、心臓に刺激を与えて脈拍を正常に調整します。この器具は、電波の影響を受けて脈が速くなったり、打たなくなったりする誤作動を生じさせる恐れがあります。現在では、機器の精密化によって携帯電話などの影響についても埋め込み部位から30cm以上離して使えば問題は少ないと言われています。そこで、人が接近・密着するような場面、例えば、電車の中などでは、マナーモードやメールでも電波を発しているため、携帯電話の電源を切るなどの配慮が必要になります。

#### ※ICD（うえこ み がたしよさいどうき植込み型除細動器）

ICDも胸部に埋め込む医療器具です。ペースメーカーの機能と共に、AEDという心停止をした方に使用する機器同様に電気ショックを与える機能を持っています。携帯電話などの電波の影響については、ペースメーカーのことばかり言われていますが、ICDにも影響します。誤作動をすると電気ショックを出すことがあり、大変危険です。しかし、ペースメーカーに比べて周知されていないのが現状です。ICDを使用する方に対しては、ペースメーカー同様の配慮が必要です。



### 3 呼吸機能障害について

肺結核後遺症<sup>はいけつかくこういしやう</sup>、肺気腫<sup>はいきしゆ</sup>、慢性気管支炎<sup>まんせいぎかんしえん</sup>などによって肺呼吸で必要な量の酸素を取ることができないため、いつでも息苦しい状態にある障害です。慢性的な呼吸困難、息切れ、せきが主な症状です。階段の昇り降りや布団の上げ下げのような、呼吸に負担がかかる日常生活活動や外出が困難になります。また、症状が重くなると、歩くことでも呼吸に負担がかかり、車いすが必要になる方もいます。

症状を改善し安定させるためには、酸素療法、薬物療法などの治療が必要です。近年、在宅酸素療法（以下HOT）を行う方が増えています。HOTとは、鼻にチューブを入れて、携帯用ボンベから酸素を取り込むことで、日常生活の息苦しさが改善されます。ただし、携帯用ボンベは重くて持ち運びにくく、「見た目が恥ずかしい」「通行人に『邪魔だ』と言われた」などの理由から、利用をひかえる方もいます。また、周囲の方に奇異な目で見られた経験などから、外出する意欲を失ってしまった方もいます。



携帯用酸素



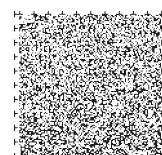
酸素濃縮装置

### 4 ぼうこう・直腸機能障害について

脊髄損傷<sup>せきずいそんしやう</sup>、悪性腫瘍<sup>あくせいしゆやう</sup>などの疾患のために、ぼうこう・直腸の機能が低下または喪失し、排泄機能が妨げられる障害です。そのため、排尿・排便のコントロール、ストーマ（※）装具やオムツの利用、食事などの生活管理をしながら日常生活を送らなければなりません。

最も大変な管理は、排尿・排便のコントロールです。例えば、ある方は、週に1回下剤を飲まなければならない、土曜日の夜に下剤を飲むと、その影響があるために日曜日には外出できません。

また、オムツを使っている方は、1日に数回オムツを交換しなければなりません。特に外出先ではオムツを変える場所がない、オムツを捨てるゴミ箱がないなど、困ることが多々あります。オムツやストーマ装具を利用している方は、トイレに時間がかかることで周囲に気がつかって、旅行をやめてしまうこともあります。また、便・尿や臭いが漏れることに不安を感じることもあります。





※ストーマって何？・・・手術によって、おなかにつくった便や尿の排泄口を指します。ストーマの種類には便が排泄される消化器系ストーマと尿が排泄される尿路系ストーマがあり、それぞれ人工肛門・人工ぼうこうとも言います。これに、袋を付けて便や尿を排出します。この排出に必要な道具を含めて、ストーマ装具と言います。



尿路系



消化器系



写真：コンバテックジャパン株式会社

○ストーマ装具を利用する方は、こんなことに困っています。

- ・汚れたストーマ装具や衣服、身体を洗う設備がない。
- ・腹部を洗いたいけど石けんや温水が出ない。
- ・着替えなどを置く場所がない。
- ・正しく装着できたかを確認する鏡がない。
- ・外見上は障害があることがわからないので、
- ・多目的トイレに入りづらい。

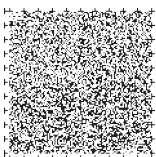
○ストーマ装具を利用する方に対応したトイレにはオストメイトマークが付けられています。



## 5 じん臓機能障害について

まんせいじん び ぜん      とうによびょうせいじんしょう  
慢性腎不全、糖尿病性腎症などの疾患のために、じん臓の機能が低下する障害です。じん臓機能に障害のある方は、疲れやすいという特徴があります。自分のじん臓の力だけでは、命を維持できない場合には、透析を行います。

透析は、週3～4回、1回4時間程度かかります。定期的な通院や長時間の治療を必要とするため心身の疲労につながったり、職場や学校に通い続けることが困難になることもあります。また、地方では透析設備を備えている病院が少ないため、通院に苦労している透析患者が多くいます。



## 6 小腸機能障害について

クローン病、小腸軸捻転<sup>しょうちようじくねんてん</sup>、先天性小腸閉塞症<sup>せんてんせいしょうちようへいそくしょう</sup>などの疾患による小腸機能の低下または喪失のために、栄養の維持が困難になる障害です。消化・吸収をつかさどる器官の障害であるため、食事のコントロールや制限が必要となります。

例えば、ある方は、プリンや豆腐以外は、口から食事ができません。このため、鼻などから自分で管を入れ、栄養を取ります。また、完全絶食が必要な方は、栄養素を静脈から直接注入して栄養を取る必要があります。これは自宅でもできます。

この障害は、特に食生活に制限があるため、周囲の方が病気についてよく知らない場合、本人の精神的負担となることがあります。例えば、みんなでの食事の時、人に食べることを勧められても断わらなければならない場合があります。また、職場で、頻繁にトイレに行っていると「さぼっている」と言われることもあります。本人が病気のことを相談できる環境や、周りの方が病気に対して配慮する環境づくりが大切です。

## 7 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について

ヒト免疫不全ウイルス（以下HIV）感染によって免疫機能が低下する障害です。ウイルスや細菌などの弱い病原体で病気になりやすく、脳や神経に症状が出ることもあります。病状が安定していれば、薬を定期的に服用し、飲食物や生活のリズムを管理することで、職場や家庭での日常生活が可能です。

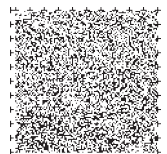
この障害は、周囲の誤った知識や偏見、病気に対する差別がもっとも大きな問題です。正しい知識を一般に広め、偏見と差別を除いていく必要があります。

HIVは感染力が弱く、体液を通さない限り、日常生活の中では感染することはありません。

例えば、

- バスや電車で隣に座る
- 握手をする
- 食器や電話の共有
- お風呂やプールに入る
- 理容店、美容院に行く

では、感染しません。



## VI 高次脳機能障害のある方と出会ったら…

### 1 高次脳機能障害とは

交通事故や脳こうそくなどが原因となって、脳の一部が損傷を受け、身体のみひや視覚、聴覚の障害とは別に、思考、記憶、行為、言語、注意などの脳機能に障害が起きた状態を、高次脳機能障害といいます。

外見上は回復し平常に戻ったように見えても、社会生活や日常生活の場に戻ると、以前と違う「変化」に家族も周囲も戸惑い、事態の深刻さに気づかされます。見た目からは正常と異常の判断がつきにくいことから「見えない障害」とも呼ばれています。

### 2 高次脳機能障害の症状

い ひろうせい  
易疲労性

精神的に疲れやすい。

きおくしょうがい  
記憶障害

新しいことが覚えられない。何度も同じことを聞く。

ちゅういしょうがい  
注意障害

集中力が続かない。気が散りやすい。

すいこうきのうしょうがい  
遂行機能障害

物事を計画して実行することができない。

かんじょうしょうがい  
感情障害

怒りっぽくなる。子供っぽくなるなど感情のコントロールが難しい。

しつ ことば  
失 語

言葉を理解、表現できない。

しつ こう  
失 行

道具がうまく使えない。動作がぎこちなく、うまくできない。

しつ にん  
失 認

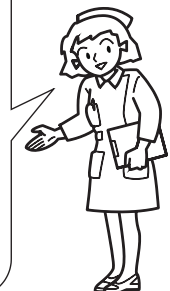
物の形や色がわからない。人の顔が見分けられない。

はんそくくわんむし  
半側空間無視

体の半分から左右どちらかの空間について気づかなくなる。

ちしてきしょうがい  
地誌的障害

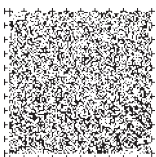
自分のいる場所や時には自宅の場所までわからなくなる。



この全ての症状を持っているということではありませんが、いくつかの症状を併せ持っていることが多くあります。

### 3 基本的配慮について

外見上目立たないうえに、本人にも障害を十分に認識できていないことが多いです。障害の特性として、話したいことを上手に相手に伝えられない場合があり、話を聞いている側に動揺があると、その様子からプレッシャーを感じ、話す意欲が失われたり、感情の起伏が激しくなる場合があります。ゆったりとした態度で接することが大事です。



## 4 注意障害のある方には

集中力が続かない、気が散りやすいなどの「注意障害」のために、複数の物事を同時に行うことが難しくなるなどの症状が出ます。本人に障害を理解してもらって、生活してもらうことは大切ですが、理解できない場合には見守りが必要となります。

(対応方法)

- (1) 仕事中は、1つのことのみを行う。
- (2) 刺激が入らないように仕事の環境づくりを心がける。
- (3) 指示は、短時間でポイントを押さえながらいねいに繰り返し行う。
- (4) 集中を促すように、声を出してもらう。
- (5) 指示などは1つずつ行い、同時に2つ以上のことはしないようにする。
- (6) 短時間で休憩を入れるようにする。

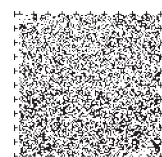


## 5 記憶障害のある方には

新しいことを覚えられないなど記憶に障害があるので、記憶の代わりにメモを取る方法などで、必要な情報を整理します。外出すると帰り道がわからなくなる危険性などがあります。本人に言ったことを書いてもらっておくと、障害を自覚してもらうことに役に立つ場合があります。

(対応方法)

- (1) 決まった日課に従って生活するようにする。
- (2) 伝言や大事な約束・情報は、ふせんを活用したり目の届きやすい場所にメモを貼る。また、メモしやすいようメモ帳を電話のそばに置く。
- (3) 棚にラベルを貼り、物の置き場所を一定の位置に決めておく。



## 6 遂行機能障害のある方には ～臨機応変にできない～

必要な情報を整理し、順序立てて行動することが苦手で、思いつきで行動してしまうなどの症状があります。例えば手順を踏んで料理を作ることができません。一連の行動をできる限り本人だけでできるように配慮する必要があります。

次に何をしたら良いのか指示するのではなく、手がかりを与えることが大切です。

(対応方法)

- (1) 行動を具体的な手順にそって説明する。
- (2) 行動が中断した場合
  - ①手がかりを与え、行動を明確にする。
  - ②手がかりを徐々に減らして、繰り返し行ってもらおう。
  - ③具体的な手順を確認しながら行う。

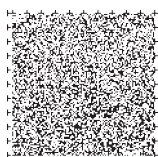
## 7 感情障害のある方には

不安感が高まり泣き出したり、興奮するなど、感情のコントロールが困難になります。感情が爆発している時には、説得しても冷静に聞くことができません。ゆっくりと時間をかけて、本人が落ち着くのを待ちましょう。話題を変えるのも一つの方法です。また、本人に感情の障害があることを理解してもらうことが大切です。周りの方も、本人が怒らないようにするなどの障害に対する配慮も重要になります。

## 8 日常生活場面での対応 ～こんな時 こんな対応～

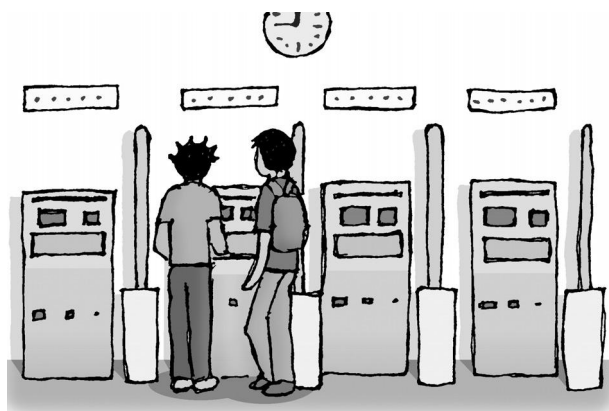
お店では…

- (1) たくさんの商品の中から欲しい商品が探せないことがあります。何を探しているのかを聞いて、その商品のある売場まで案内してあげましょう。
- (2) お金の確認に時間がかかるため、お金の支払いがうまくできない方がいます。落ち着いてお金の支払いができるようにせかさないようにしましょう。



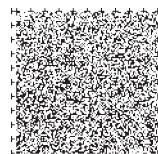
### 公共交通機関では（電車やバス）

- (1) 運賃表や時刻表などが理解できず、とまどう方がいます。運賃を読み上げるなど、理解できるように助けてあげましょう。
- (2) 行き先をうまく伝えられずに困っている時は、具体的に駅名をあげて、行き先を伝えやすくしてあげましょう。
- (3) お札を入れるところにコインを入れようとするなど、機械などの利用が難しい方がいますので、「ここにコインを入れましょう。」と声をかけるなどして助けてあげましょう。



### 医療機関では

- (1) 予約した日や時間を忘れてしまう方もいます。予約日などはメモを渡すなどして、本人が後で確認できる方法でわかりやすく伝えましょう。
- (2) 薬の説明、飲み方などが読めなかったり、わからなかったりします。必要に応じてわかりやすい言葉で説明するようにしましょう。薬などは1回ごとに分けるなどすると良いかもしれません。



## VII 知的障害のある方と出会ったら…

### 1 知的障害とは

知的障害とは、知的な能力（※）の発達が同じ年齢の方より遅れている障害で、大人になる前（18歳未満）に認められ、持続していることがひとつの目安です。日常生活に支障が生じるために何らかの支援が必要になる場合があります。この障害は病気と違って治るものではありませんが、周囲の方の理解や環境を整えてあげることによって、持っている能力を引きだしたり、伸ばしたりすることができます。

※知的な能力

考える、理解する、記憶する、推測するなど学習に必要な能力や、その場の状況に合わせて行動する適応能力、日常生活や学校生活を送るうえで必要な能力などが含まれます。

### 2 知的障害のある方の特徴

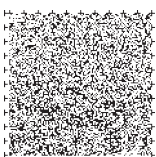
知的障害のある方の特徴の現れ方、その程度は様々です。以下の特徴が重複して現れることもあります。

- 同じ言葉を繰り返したり、相手の言葉を繰り返したり（オウム返し）します。
- 1つのことに集中すると周囲に関心が向かず、危険を察知することができなかつたり注意があるそかになることがあります。
- 物事の順番や場所や形にこだわり、変化に対応することが苦手です。
- 日常生活での計算が苦手です。
- 1つのことに集中するのが苦手です。
- 複雑な文章や会話が苦手です。
- 強いストレスを感じるとパニック状態になり、大きな声を出したり、本人の思いとは別に自分を傷つけたり、人や物にあたったりすることがあります。
- 初めての場所や物事が苦手です。（見通しが立たないことに不安を感じます）
- 騒々しい場所が苦手です。
- 否定的な言葉に敏感です。

初めての体験に不安を感じます



イラスト：櫻田 耕司



### 3 知的障害のある方と接する時は

知的障害のある方と出会ったら、何をしているのか、しばらく見守ってください。困っている様子であれば声をかけてください。



イラスト：櫻田 耕司

#### 話しかける時の配慮

- ① どうしたらよいかわからない様子の中には、まず正面に立ち目を合わせて、ゆっくりはっきりやさしい言葉で声をかけてください。（不安や緊張をほぐし、気軽に話ができるようにやさしい声かけが必要です。）
- ② 本人の話は余裕を持ってよく聞いてください。
- ③ 応対者の一方的な判断で結論を導かないように配慮してください。質問の意味を考え理解し、言葉を探してから表現するので、時間がかかります。相手が言葉を返すまで、焦らずに待ってください。
- ④ 相手の様子を見て、よりわかりやすい言葉に代える工夫をしてみてください。コミュニケーションボード・絵カード・写真などを使うとコミュニケーションがとりやすくなります。



イラスト：櫻田 耕司

#### 用件を確認する時の配慮

- ① わかりやすく具体的な言葉でたずねてください。本人が使う言葉や表現があいまいだったり、発音が不明瞭だったりする場合がありますが、断片的なことながらも用件を理解するように努めてください。
- ② 自分で答えを探す質問には答えにくい方もいます。その場合は、具体的な選択肢をあげての質問か、「〇〇ですか？」など「はい」「いいえ」で答えられるような聞き方をしてください。
- ③ 質問内容が十分にわからなくても、何となく答えてしまう方もいます。本人に用件を言ってもらい理解できているかを確認してください。言葉での表現が苦手な場合は、コミュニケーションボードや絵カードなどを使って確認してみてください。

#### 周囲の方に迷惑・危険な行動を見かけたら

- ① 静止や注意をする時には、短い言葉で簡潔にはっきりと伝えてください。
  - ② 手や指で×印を作りながら、大声は避けて静かに声をかけてください。
  - ③ パニックを起こしている場合、周囲の安全を確認し落ち着くまで見守ってください。
  - ④ 落ち着いてきてから、なぜ危険なのか、どうしたらよいのかを本人が納得のいくように話してあげてください。
- ※本人や周囲に危険が生じるような場合は、その限りではありません。

